



<安全に関する情報について>

「安全基本方針」に基づき、安全な輸送を確保することを最優先に位置づけておられます。運行管理システム、駅などの安全対策や運行管理・設備の充実など、ハード面の対策も着実に実行されています。ソフト面でも、従来から月に一度開催される鉄道安全会議に加え、2008年度には一年に一度、鉄道部門の管理職も参加する鉄道安全大会も開催されてヒューマンエラーに関する特別講演などが行われています。また、他社の事故事例を受けて、視覚障がい者のためにホーム点字ブロック内方線の設置が進められています。この事例から京阪グループの運輸安全マネジメントが効果的に機能していると判断ができます。また、部門間の管理上の境界で問題が起きやすいことを認識され、事故の発生を未然に防止するために部門間の取り決めを洗い出すような指示を上田社長が出されています。この取り決めのもとになった過去の事故情報の風化を防ぐための取り組みとして高く評価できます。このように京阪グループの運輸安全マネジメントは現在でも高い水準であると思われませんが、安全に終着点はありませんので今後はより進化した高いレベルのマネジメントへ発展させることが期待されます。

<社会性に関する情報について>

今年度は、不動産販売部門の京阪東ローズタウンを訪問しました。京阪グループが手がける大規模な開発で、地域住民との積極的な交流サポートが行なわれています。「地域の大人と子どもが共に学び、育つ」、そのような街づくりを目指した「共育(ともいく)」という活動が行なわれています。また、京阪東ローズタウン共育ステーション「つくるところ」を開設し、様々なプログラムが提供されています。京阪グループとして、このような地域住民とのつながりを重視する取り組みは高く評価できます。さらに、関西民鉄のなかで率先して「お客さまセンター」を開設し、2008年3月には鉄道CS推進会議を設置して顧客の声を聞き、その内容を分析して対応するための取り組みを行っていることも立派です。従業員に対しては、高い水準の年次有給休暇取得率が評価できます。有給休暇の取得は、会社のバックアップ無しでは実現できません。高い有給休暇取得率を維持できていることは、育児の支援推進施策の充実の証である「くるみん」の取得とあわせて従業員への取り組みとして評価できます。

京阪グループのCSR活動をより高めるには、今まで以上にステイクホルダーとの対話が重要になります。様々なステイクホルダーから意見を聞くことによって社会が京阪グループに期待するニーズが明確になり、これらを解決する取り組みが今後期待されます。

<環境に関する情報について>

環境保全活動については、環境マネジメントシステムに基づき、各種プロジェクトを通じた部門横断的な活動が行なわれています。京阪電気鉄道の最大の環境負荷は、鉄道事業の電力消費量です。2008年度の中之島線開業で営業路線が増加したにもかかわらず、新型車両の導入、省エネ運転の実施などの対策により原単位目標は達成され、総電力量も前年度から微増にとどまっています。夏場の外気温が低かったという管理不能の要因もあったようですが、この結果は評価できます。また、これまで進めているパーク&ライドも利用者が増加しており、成果が出ています。さらに、公共交通利用促進として、駅周辺の所有地や民有地の借り上げにより駐輪場を整備する取り組みも高く評価できます。中之島線の駅舎も見学しました。無垢の木材を壁面に利用した落ち着いた内装、自然光の採光システム、大川の水を空調に利用するなど、先駆的な取り組みがなされています。このような、環境保全活動は今後も推進していただきたいと思います。

<CSRレポートについて>

京阪電鉄のステイクホルダー別に構成され、効果的な配色で工夫された分かりやすい報告書です。写真を多用された説明は視覚的に読者にアピールし、大変親しみやすく読者の理解を促進しています。また従業員の顔が見えるコメントはリアリティを感じます。今後はステイクホルダーダイアログの開催など、他のステイクホルダーからのコメントも積極的に取り入れられると、より一層「京阪電鉄のCSR」が明確になるのではないかと思います。